

V. 調査結果（小学校）

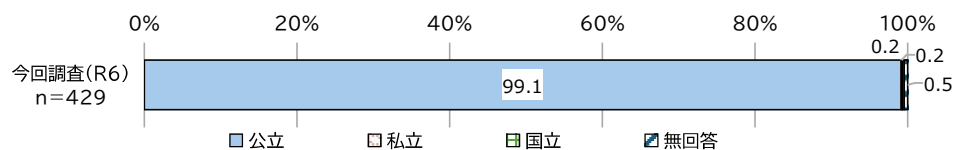
1. 「貴校の概要」について

問1 貴校の概要について回答してください。

学校の概要については、「公立」が99.1%となっている。

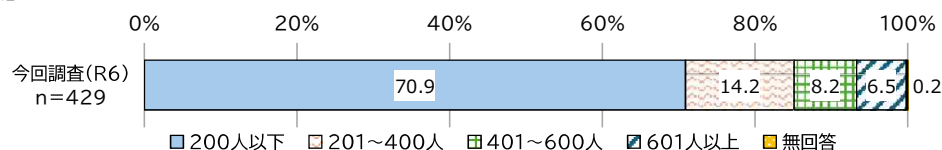
学校規模については、「200人以下」が70.9%と最も多く、次いで「201～400人」が14.2%、「401～600人」が8.2%となっている。

【区分】



		全体	公立	私立	国立	無回答
上段:回答者数 下段:構成比						
			上位1位	上位2位		
今回調査		429 100.0	425 99.1	1 0.2	1 0.2	2 0.5
学校規模	200人以下	304 100.0	304 100.0	-	-	-
	201～400人	61 100.0	60 98.4	1 1.6	-	-
	401～600人	35 100.0	35 100.0	-	-	-
	601人以上	28 100.0	26 92.9	-	1 3.6	1 3.6
	無回答	1 100.0	-	-	-	1 100.0

【学校規模】



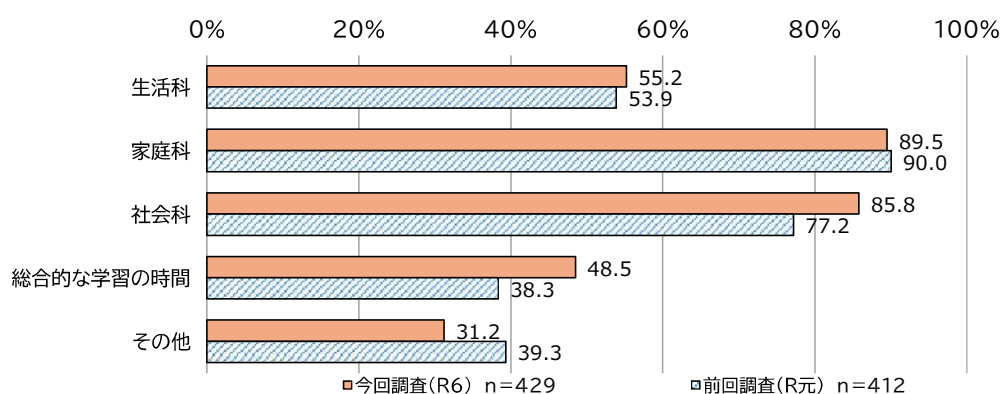
		全体	200人以下	201～400人	401～600人	601人以上	無回答
上段:回答者数 下段:構成比							
			上位1位	上位2位			
今回調査		429 100.0	304 70.9	61 14.2	35 8.2	28 6.5	1 0.2
区分	公立	425 100.0	304 71.5	60 14.1	35 8.2	26 6.1	-
	私立	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
	国立	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-
	無回答	2 100.0	-	-	-	1 50.0	1 50.0

2. 「児童に対する消費者教育の実施状況等」について

問2 消費者教育に関する授業や取組を行っている教科等、学年、時間数を記入してください。また、内容について書ける範囲で記入してください。

消費者教育に関する授業教科については、「家庭科」が89.5%と最も多く、次いで「社会科」が85.8%、「生活科」が55.2%となっている。

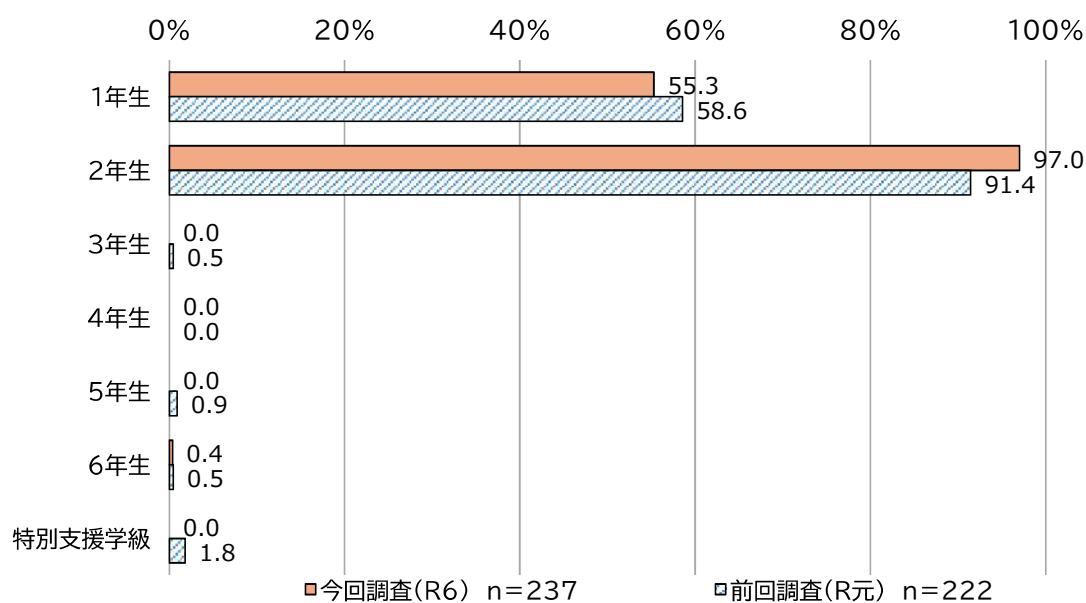
前回調査と比較して、「総合的な学習の時間」は10.2ポイント増加している。



上段:回答者数 下段:構成比		全体	生活科	家庭科	社会科	総合的な学習の時間	その他
上位1位 上位2位							
前回調査(R元)		412 100.0	222 53.9	371 90.0	318 77.2	158 38.3	162 39.3
今回調査		429 100.0	237 55.2	384 89.5	368 85.8	208 48.5	134 31.2
区分	公立	425 100.0	235 55.3	380 89.4	365 85.9	205 48.2	134 31.5
	私立	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-
	国立	1 100.0	-	1 100.0	-	1 100.0	-
	無回答	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	-
学校規模	200人以下	304 100.0	170 55.9	267 87.8	264 86.8	141 46.4	106 34.9
	201~400人	61 100.0	35 57.4	59 96.7	50 82.0	35 57.4	14 23.0
	401~600人	35 100.0	18 51.4	30 85.7	29 82.9	19 54.3	7 20.0
	601人以上	28 100.0	13 46.4	27 96.4	24 85.7	12 42.9	7 25.0
	無回答	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-

【1.生活科：学年別】

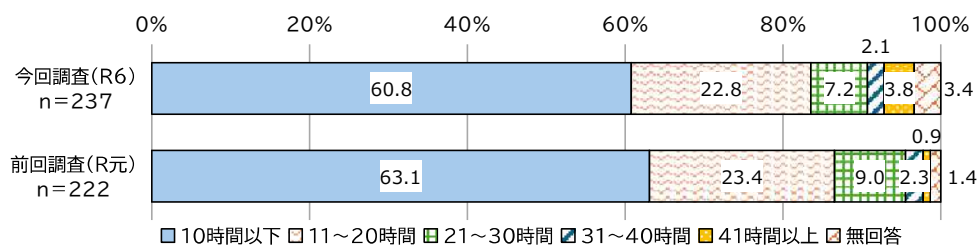
消費者教育に関する授業や取組を行っている学年については、「2年生」が97.0%と最も多く、次いで「1年生」が55.3%となっている。



		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
上段:回答者数 下段:構成比									
前回調査(R元)		222 100.0	130 58.6	203 91.4	1 0.5	-	2 0.9	1 0.5	4 1.8
今回調査		237 100.0	131 55.3	230 97.0	-	-	-	1 0.4	-
区分	公立	235 100.0	130 55.3	228 97.0	-	-	-	1 0.4	-
	私立	-	-	-	-	-	-	-	-
	国立	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2 100.0	1 50.0	2 100.0	-	-	-	-	-
学校規模	200人以下	170 100.0	107 62.9	163 95.9	-	-	-	1 0.6	-
	201~400人	35 100.0	11 31.4	35 100.0	-	-	-	-	-
	401~600人	18 100.0	6 33.3	18 100.0	-	-	-	-	-
	601人以上	13 100.0	6 46.2	13 100.0	-	-	-	-	-
	無回答	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-

【1.生活科：時間別】

消費者教育に関する授業や取組を行っている時間については、「10時間以下」が60.8%と最も多く、次いで「11～20時間」が22.8%となっている。



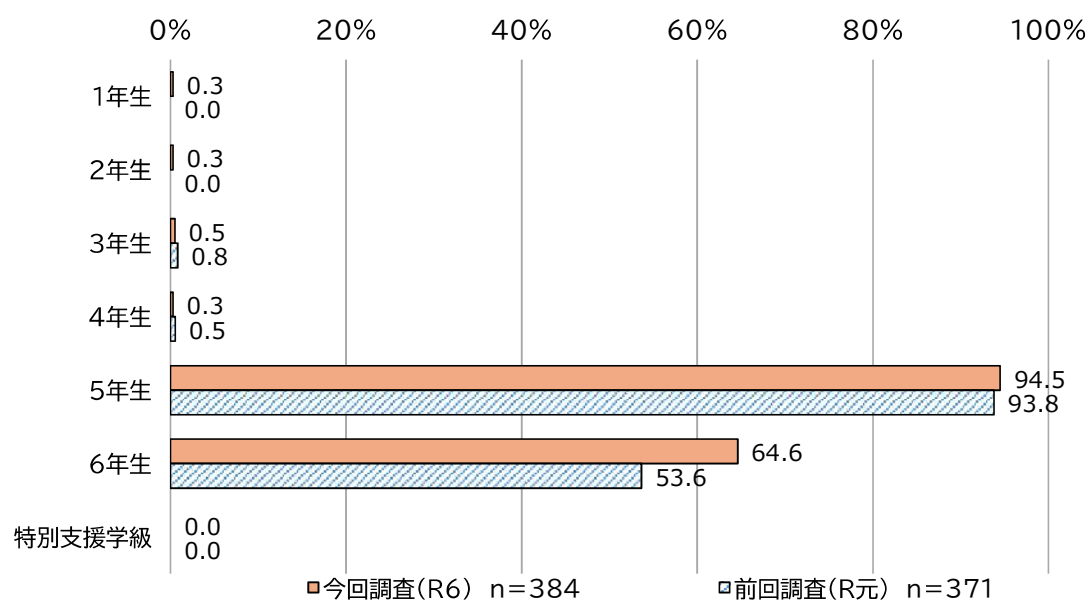
		合計	10時間以下	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41時間以上	無回答
上段:回答者数 下段:構成比								
上位1位 上位2位								
区分	前回調査(R元)	222	140	52	20	5	2	3
		100.0	63.1	23.4	9.0	2.3	0.9	1.4
	今回調査	237	144	54	17	5	9	8
		100.0	60.8	22.8	7.2	2.1	3.8	3.4
	公立	235	143	54	17	5	8	8
		100.0	60.9	23.0	7.2	2.1	3.4	3.4
	私立	-	-	-	-	-	-	-
	国立	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	1	-	-	-	1	-
		100.0	50.0	-	-	-	50.0	-
学校規模	200人以下	170	117	31	8	3	6	5
		100.0	68.8	18.2	4.7	1.8	3.5	2.9
	201～400人	35	14	12	4	2	1	2
		100.0	40.0	34.3	11.4	5.7	2.9	5.7
	401～600人	18	5	7	4	-	1	1
		100.0	27.8	38.9	22.2	-	5.6	5.6
601人以上	13	7	4	1	-	1	-	-
	100.0	53.8	30.8	7.7	-	7.7	-	-
無回答	1	1	-	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-

【1.生活科：学習内容】

分類	回答（自由記述） ※主な回答を記載
金融教育	お店での買い物の仕方や公共バスの乗り方を知る
	様々な学習場面の中で、買い物をする商品には必ず値段がついており、選んで買っていることを知る
	お祭りを企画する中で、自分が必要な物を計画的に集める工夫を考えたり、お店屋さんをすることで計画的にお金を使おうとする態度を育てたりする
	日常生活に必要な買い物やお金の使い方の学習
	物や金銭を大切にする
食育	「ぐんぐんそだてわたしの野さい」
	野菜の栽培活動を通し、生産者の苦労や消費者としての態度を養う
	育てた野菜の収穫を通して、食べ物のありがたさを知る
	野菜やお米作りを行い収穫の喜びを味わうと共に、作ってくれている方への感謝の気持ちを育てる
仕事	町で働く人の下に出かけて、自分たちの生活を支える商品の生産等について話を聞く
	校区内の店舗等を探す活動を通して、消費生活についての関心をもつ
環境	農業に関わる人の話を聞き、食物を育てることの難しさや食品ロスについて知る
	自分が必要なものを、身近にあるものを利用して作るとともに、物を繰り返し活用したりする力を育てる
	身の回りの生きものや動植物に関心をもたせ、物を大切にする態度を育てる
その他	身の回りの商品を安全に扱うためのきまりを守ることができる
	家庭での生活を支える一人一人の役割を知る活動を通して生活の中の消費活動の工夫などを知る

【2, 家庭科：学年別】

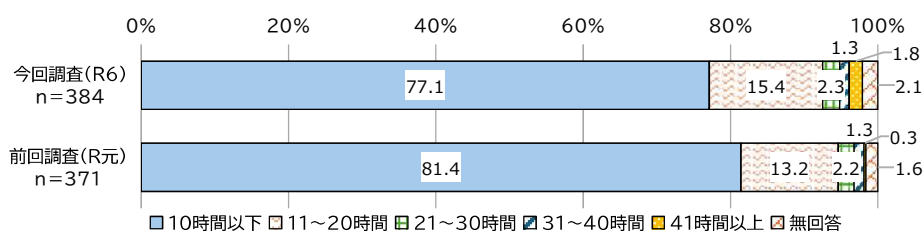
消費者教育に関する授業や取組を行っている学年については、「5年生」が94.5%と最も多く、次いで「6年生」が64.6%となっている。



		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
上段:回答者数 下段:構成比									
前回調査(R元)		371 100.0	- -	- -	3 0.8	2 0.5	348 93.8	199 53.6	- -
今回調査		384 100.0	1 0.3	1 0.3	2 0.5	1 0.3	363 94.5	248 64.6	- -
区分	公立	380 100.0	1 0.3	1 0.3	2 0.5	1 0.3	359 94.5	245 64.5	- -
	私立	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -
	国立	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	1 100.0	- -
	無回答	2 100.0	- -	- -	- -	- -	2 100.0	2 100.0	- -
学校規模	200人以下	267 100.0	1 0.4	1 0.4	2 0.7	1 0.4	253 94.8	183 68.5	- -
	201~400人	59 100.0	- -	- -	- -	- -	57 96.6	28 47.5	- -
	401~600人	30 100.0	- -	- -	- -	- -	27 90.0	18 60.0	- -
	601人以上	27 100.0	- -	- -	- -	- -	25 92.6	18 66.7	- -
	無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	1 100.0	- -

【2.家庭科：時間別】

消費者教育に関する授業や取組を行っている時間については、「10時間以下」が77.1%と最も多く、次いで「11～20時間」が15.4%となっている。



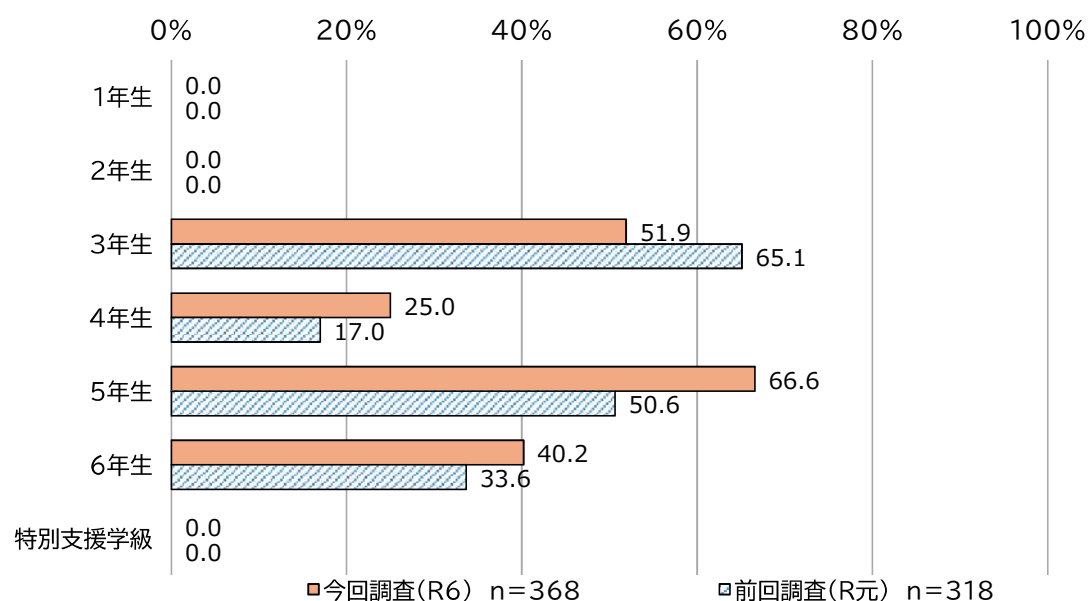
上段:回答者数 下段:構成比		合計	10時間以下	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41時間以上	無回答
前回調査(R元)		371	302	49	8	5	1	6
		100.0	81.4	13.2	2.2	1.3	0.3	1.6
今回調査		384	296	59	9	5	7	8
		100.0	77.1	15.4	2.3	1.3	1.8	2.1
区分	公立	380	293	59	9	5	6	8
		100.0	77.1	15.5	2.4	1.3	1.6	2.1
	私立	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-
	国立	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-
学校規模	無回答	2	1	-	-	-	1	-
		100.0	50.0	-	-	-	50.0	-
	200人以下	267	207	42	5	4	3	6
		100.0	77.5	15.7	1.9	1.5	1.1	2.2
	201～400人	59	47	6	3	-	1	2
学校規模		100.0	79.7	10.2	5.1	-	1.7	3.4
	401～600人	30	20	8	-	-	2	-
		100.0	66.7	26.7	-	-	6.7	-
	601人以上	27	21	3	1	1	1	-
		100.0	77.8	11.1	3.7	3.7	3.7	-
	無回答	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-

【2.家庭科：学習内容】

分類	回答（自由記述） ※主な回答を記載
金銭教育	「生活を支える物やお金」で、お金の大切さや、消費者として無駄な買い物をせず、必要な物を選んで買うこと
	「生活を支える物やお金」消費や収支のバランス等について学習する
	金銭の管理と購入、消費者の権利と責任
	金銭の大切さを学び、計画的な使い方を考える活動
	欲しい物と必要な物の違いを理解したり、環境に配慮した消費についても考えたりする活動
	租税教室
	買い物の仕組み、売買契約の基礎、物や金銭の使い方と買い物について消費者の役割を理解する
消費生活	物や金銭の大切さに気付く、計画的な使い方を考える学習を通して、身近な物の選び方、買い方に配慮して、適切に購入する力を育てる
環境	食品や日用品の表示・ラベルを読み、成分や内容量、製造元などの情報を正しく理解する力を養う
	課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、消費生活、環境に関する知識・技能を身に付ける
	身の回りを快適に過ごすために、食品ロスや買いすぎなどの問題点に気付く、解決策を考える
	生活や環境のつながりを考え、物やエネルギーを適切に使い、環境を考えた生活を送る態度を育てる
	持続可能な社会のために 食品ロスの削減
	SDGsの観点から自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解する

【3.社会科：学年別】

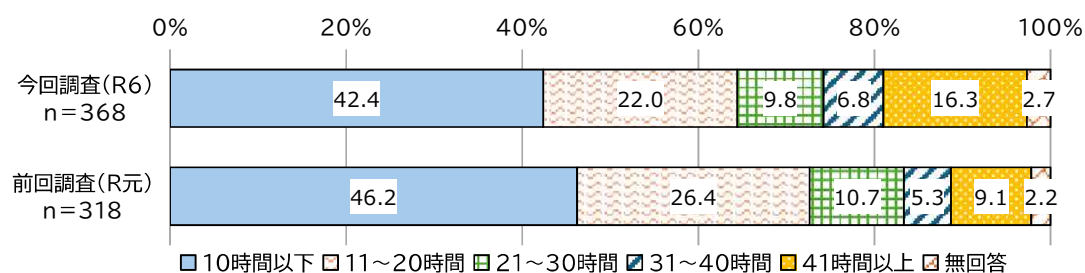
消費者教育に関する授業や取組を行っている学年については、「5年生」が66.6%と最も多く、次いで「3年生」が51.9%となっている。



		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
上段:回答者数 下段:構成比									
前回調査(R元)		318 100.0	- -	- -	207 65.1	54 17.0	161 50.6	107 33.6	- -
今回調査		368 100.0	- -	- -	191 51.9	92 25.0	245 66.6	148 40.2	- -
区分	公立	365 100.0	- -	- -	189 51.8	91 24.9	243 66.6	147 40.3	- -
	私立	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	国立	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	無回答	2 100.0	- -	- -	2 100.0	- -	1 50.0	1 50.0	- -
学校規模	200人以下	264 100.0	- -	- -	138 52.3	63 23.9	175 66.3	104 39.4	- -
	201~400人	50 100.0	- -	- -	25 50.0	11 22.0	33 66.0	20 40.0	- -
	401~600人	29 100.0	- -	- -	15 51.7	10 34.5	20 69.0	13 44.8	- -
	601人以上	24 100.0	- -	- -	12 50.0	8 33.3	16 66.7	11 45.8	- -
	無回答	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -

【3.社会科：時間別】

消費者教育に関する授業や取組を行っている時間については、「10時間以下」が42.4%と最も多く、次いで「11～20時間」が22.0%となっている。



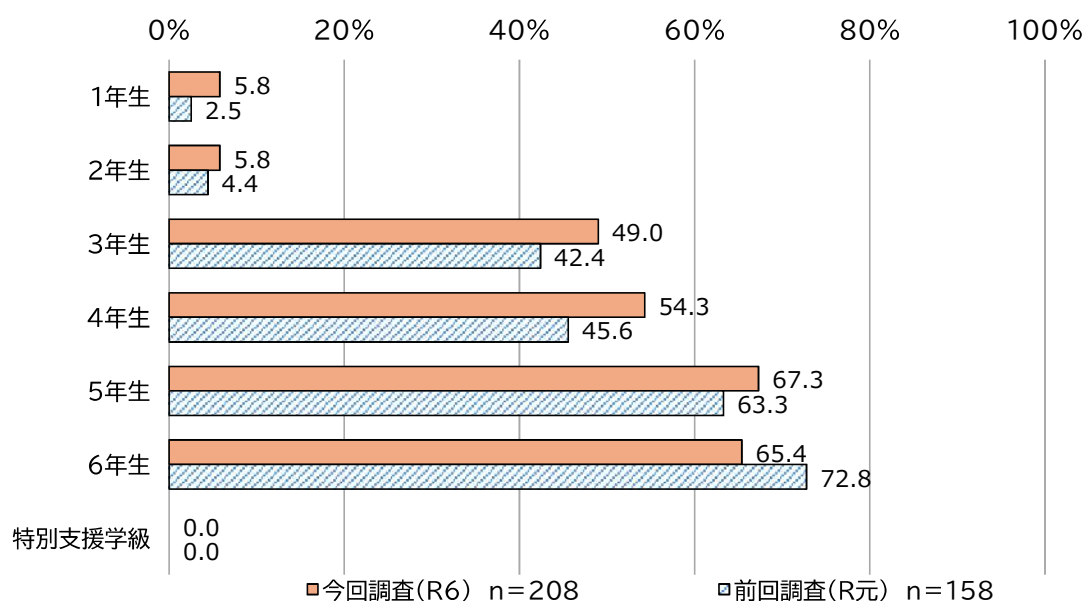
上段:回答者数 下段:構成比		合計	10時間以下	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41時間以上	無回答
前回調査(R元)		318	147	84	34	17	29	7
		100.0	46.2	26.4	10.7	5.3	9.1	2.2
今回調査		368	156	81	36	25	60	10
		100.0	42.4	22.0	9.8	6.8	16.3	2.7
区分	公立	365	154	81	35	25	60	10
		100.0	42.2	22.2	9.6	6.8	16.4	2.7
	私立	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-
学校規模	国立	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	1	-	1	-	-	-
		100.0	50.0	-	50.0	-	-	-
学校規模	200人以下	264	120	56	25	17	40	6
		100.0	45.5	21.2	9.5	6.4	15.2	2.3
	201～400人	50	17	14	4	5	8	2
		100.0	34.0	28.0	8.0	10.0	16.0	4.0
	401～600人	29	8	5	4	3	8	1
学校規模		100.0	27.6	17.2	13.8	10.3	27.6	3.4
	601人以上	24	10	6	3	-	4	1
		100.0	41.7	25.0	12.5	-	16.7	4.2
	無回答	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-

【3.社会科：学習内容】

分類	回答（自由記述） ※主な回答を記載
消費生活	商店やスーパーマーケットでは消費者の願いにこたえた販売の工夫をしていることを理解し、それぞれの店の良さを知り、地域に愛着をもち、消費者として賢く買い物ができるようになる
	社会生活を営む上で、法律や決まりが大切であることを理解する
	税金のしくみや使われ方について学ぶ
	地域の産業や消費生活の様子等を学習して、自身の消費生活について振り返り、よりよい消費生活を心がける姿勢を育てる
	身の回りの商品の安全に関するマークに気づくことができる
環境	ごみのしゅりと利用～持続可能な社会を築くためにごみの処理やリサイクルの重要性について考える
	環境を守るわたしたち 環境問題を知り、環境に配慮した消費活動を行うよりよい消費者としての資質を養う
	飲用水がどのように作られ、下水がどのように処理されるか、またゴミはどのように処理され自然環境が守られているかについて学ぶ
	家庭内で出るごみの処理の仕方を学ぶと共に利用(3R:リデュース・リサイクル・リユース)について知る
	食品ロスや地産地消について
食品	「わたしたちのくらしと食料生産」 自身の消費生活を振り返り、よりよい消費生活に生かす
	これからの食糧生産について、地産地消や食料自給率について考える
	「これからの食料生産とわたしたち」で、食の安全や食料の確保等について考える
	食糧生産について調べたり、考えたりすることを通して、生産や物流の流れについて知る
仕事	「はたらく人とわたしたちのくらし」生産者や商業施設の人々の仕事への思いや働き方の工夫を知り、よりよい消費者となるための資質を養う
	「店ではたらく人」の学習において、スーパーの見学などを通して生産者や働く人の願い、買い物する際に気を付けることなどを学ぶ
	お店で働く人について、値段の付け方や商品を売る工夫を学び、消費者としてどのようなことに気をつけて買い物をすればよいかについて考えを深める
	身近なお店で働く人々の仕事について学ぶ活動 お店で働く人の工夫や努力、社会への貢献について考える活動
	地域の産業や販売と自分たちの消費生活との関連について調べ、考える学習を行う
情報	「情報を生かすわたしたち」で、情報の多様な役割について学ぶ
	単元名「情報化した社会と産業の発展」 大量の情報や情報通信技術の活用が様々な産業を発展させ国民生活を向上させていることなどについて学ぶ
	情報産業とわたしたちのくらし メディアリテラシー デマに惑わされない購買行動

【4.総合的な学習の時間：学年別】

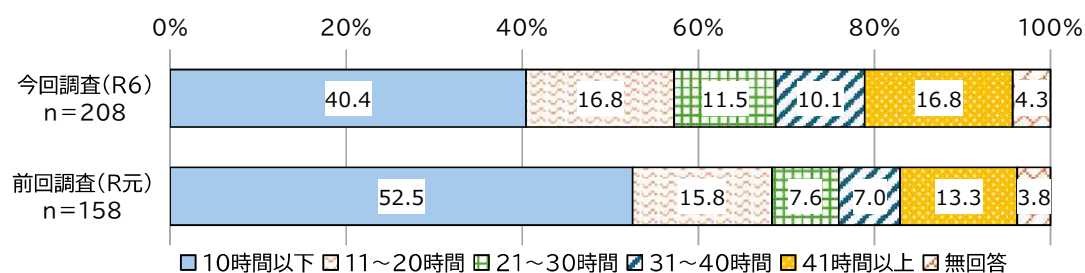
消費者教育に関する授業や取組を行っている学年については、「5年生」が67.3%と最も多く、次いで「6年生」が65.4%となっている。



		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
上段:回答者数 下段:構成比									
前回調査(R元)		158	4	7	67	72	100	115	-
		100.0	2.5	4.4	42.4	45.6	63.3	72.8	-
今回調査		208	12	12	102	113	140	136	-
		100.0	5.8	5.8	49.0	54.3	67.3	65.4	-
区分	公立	205	12	12	99	112	138	134	-
		100.0	5.9	5.9	48.3	54.6	67.3	65.4	-
	私立	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	国立	1	-	-	1	1	1	1	-
学校規模		100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-
	無回答	2	-	-	2	-	1	1	-
		100.0	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-
	200人以下	141	8	9	79	85	99	98	-
		100.0	5.7	6.4	56.0	60.3	70.2	69.5	-
学校規模	201~400人	35	1	1	15	15	20	22	-
		100.0	2.9	2.9	42.9	42.9	57.1	62.9	-
	401~600人	19	1	1	5	6	12	7	-
		100.0	5.3	5.3	26.3	31.6	63.2	36.8	-
	601人以上	12	2	1	2	7	8	9	-
		100.0	16.7	8.3	16.7	58.3	66.7	75.0	-
学校規模	無回答	1	-	-	1	-	1	-	-
		100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-

【4.総合的な学習の時間：時間別】

消費者教育に関する授業や取組を行っている時間については、「10時間以下」が40.4%と最も多く、次いで「11～20時間」、「41時間以上」が16.8%となっている。



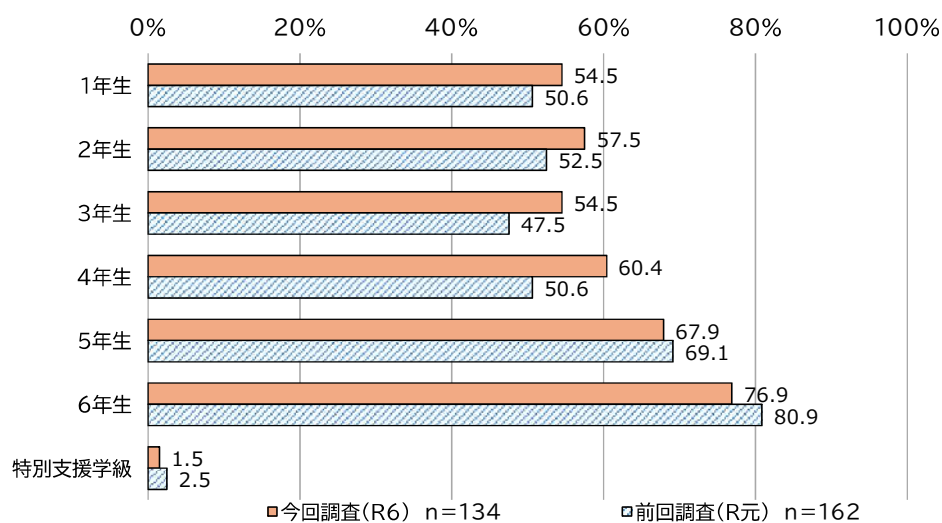
上段:回答者数 下段:構成比		合計	10時間以下	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41時間以上	無回答
前回調査(R元)		158	83	25	12	11	21	6
		100.0	52.5	15.8	7.6	7.0	13.3	3.8
今回調査		208	84	35	24	21	35	9
		100.0	40.4	16.8	11.5	10.1	16.8	4.3
区分	公立	205	84	34	24	21	34	8
		100.0	41.0	16.6	11.7	10.2	16.6	3.9
	私立	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-
学校規模	国立	1	-	-	-	-	-	1
		100.0	-	-	-	-	-	100.0
	無回答	2	-	1	-	-	1	-
		100.0	-	50.0	-	-	50.0	-
学校規模	200人以下	141	62	23	17	13	22	4
		100.0	44.0	16.3	12.1	9.2	15.6	2.8
	201～400人	35	9	5	3	7	9	2
		100.0	25.7	14.3	8.6	20.0	25.7	5.7
	401～600人	19	9	3	2	1	2	2
学校規模		100.0	47.4	15.8	10.5	5.3	10.5	10.5
	601人以上	12	4	3	2	-	2	1
		100.0	33.3	25.0	16.7	-	16.7	8.3
	無回答	1	-	1	-	-	-	-
		100.0	-	100.0	-	-	-	-

【4.総合的な学習の時間：学習内容】

分類	回答（自由記述） ※主な回答を記載
金融教育	修学旅行など実際に買い物をしたり, 商品に触れたりする機会を捉え, 予算の中で目的に応じた買い物ができる能力を育むとともに, 流行や過大広告にとらわれずに行動できる実践力を培う
	租税教室
消費生活	小学生のための消費生活講座
	昔の暮らしについて調べ, 生活の工夫等を調べ, 節約や生産の工夫について知る
環境	ゴミの減量化やリサイクルについて調べる活動を通して, 物を大切にしようとする意識を育てる
	環境問題を理解し, 正しい消費生活ができる態度を育てる
	情報, 環境, 福祉, 健康をテーマとした学習を通して, 「消費生活」への関心を高め, 児童の興味・関心に基づく課題や地域・学校の特色に応じた課題について探求的に学習し, 解決しようとする資質や能力を育てる
	共生社会を目指し, 自分たちに出来ることは何かを考え(ボランティア活動等), 実際に行う
	SDGs とフードロス
食品	「大きく育て私の作物」で野菜を育てる活動を通して, 食糧を生産する側の思いや工夫・努力に気付かせる
	食をテーマとした学習を通して, 消費生活への関心を高め, 自分の課題を解決する
	米作りを通して, 生産者の苦労や収穫の喜びを味わい, 食べ物を大切にする態度を育てる
仕事	地域の一員として, 今, 私たちにできることを考えることを通して, 地域経済について考える
	地域の産業についての学習と流通を通した金銭の流れ
情報	「情報セキュリティ・トラブル対応」で, 正しい情報の活用について学ぶ
	「情報モラル」 消費生活への関心を高め, 自分の課題を解決する資質・能力を高める
	個人情報とは何かを知り, 個人情報を守るにはどうすればいいかを考える

【5.その他：学年別】

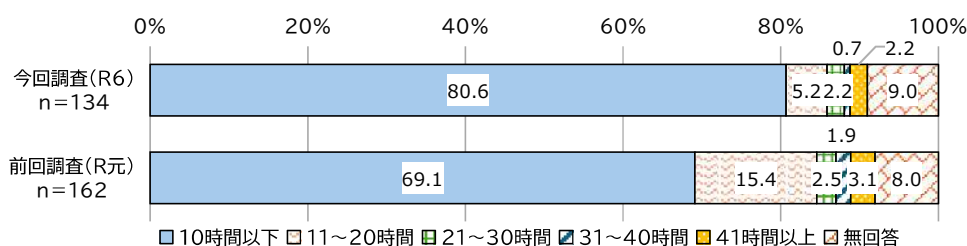
消費者教育に関する授業や取組を行っている学年については、「6年生」が76.9%と最も多く、次いで「5年生」が67.9%となっている。



		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級
上段:回答者数 下段:構成比									
前回調査(R元)		162	82	85	77	82	112	131	4
		100.0	50.6	52.5	47.5	50.6	69.1	80.9	2.5
今回調査		134	73	77	73	81	91	103	2
		100.0	54.5	57.5	54.5	60.4	67.9	76.9	1.5
区分	公立	134	73	77	73	81	91	103	2
		100.0	54.5	57.5	54.5	60.4	67.9	76.9	1.5
	私立	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	国立	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
学校規模	200人以下	106	55	60	56	61	74	81	1
		100.0	51.9	56.6	52.8	57.5	69.8	76.4	0.9
	201~400人	14	7	7	7	8	7	10	1
		100.0	50.0	50.0	50.0	57.1	50.0	71.4	7.1
	401~600人	7	5	5	5	6	5	6	-
		100.0	71.4	71.4	71.4	85.7	71.4	85.7	-
	601人以上	7	6	5	5	6	5	6	-
		100.0	85.7	71.4	71.4	85.7	71.4	85.7	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-

【5.その他：時間別】

消費者教育に関する授業や取組を行っている時間については、「10時間以下」が80.6%と最も多く、次いで「11～20時間」が5.2%となっている。

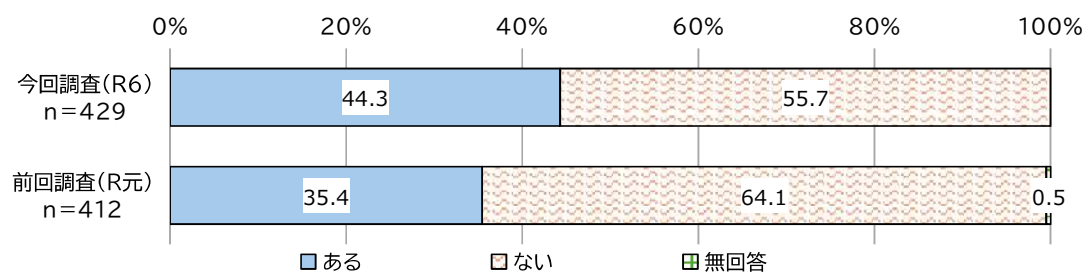
[illegible]

【5.その他：学習内容】

分類	回答（自由記述） ※主な回答を記載
金融教育	「小中学生のための消費生活講座」の実施
	計画的なお金の使い方, 買い物の仕方, 記録の仕方について
	租税教室の学習を通して, 税金の仕組みや活用について知り, 納税の大切さを学ぶ
	「数と計算」の学習は, すべて消費者教育に関していると考えている
環境	使わなくなった物を改めて利用して製作活動を行うことにより, 適切な消費の仕方を考える
	集団や社会との関わり
	年間を通したりサイクル活動
	身のまわりの整理整頓ができ, 環境の美化に努め, 物の大切さがわかり, 物を大切に作る態度を養う
食品	給食ができるまでの工程や, 材料の産地などの学習を栄養教諭から教えてもらうことで, 今後の消費者としての考えを学ぶことをしている
	給食指導を通して, フードロスや食品の産地等の学習(食品の自給について)
	食育をテーマにした学習において, 食べ物の大切さについて学ぶ
情報	スマートフォンの使い方, ネットトラブルについて
	メディア(情報の使い方)について
	情報モラル, インターネットの利用について

問3 教科書以外に使用した教材はありますか。(単数回答)

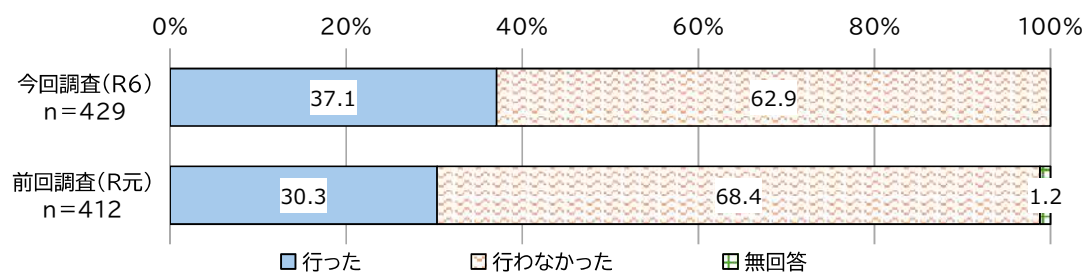
教科書以外に使用した教材については、「ある」が44.3%、「ない」が55.7%となっている。



		全体	ある	ない	無回答
上段:回答者数 下段:構成比					
上位1位 上位2位					
前回調査(R元)		412	146	264	2
		100.0	35.4	64.1	0.5
今回調査		429	190	239	-
		100.0	44.3	55.7	-
区分	公立	425	187	238	-
		100.0	44.0	56.0	-
	私立	1	1	-	-
		100.0	100.0	-	-
	国立	1	-	1	-
		100.0	-	100.0	-
	無回答	2	2	-	-
		100.0	100.0	-	-
学校規模	200人以下	304	133	171	-
		100.0	43.8	56.3	-
	201~400人	61	30	31	-
		100.0	49.2	50.8	-
	401~600人	35	12	23	-
		100.0	34.3	65.7	-
	601人以上	28	14	14	-
		100.0	50.0	50.0	-
	無回答	1	1	-	-
		100.0	100.0	-	-

問4 外部講師による授業を行いましたか。(単数回答)

外部講師による授業については、「行った」が37.1%、「行わなかった」が62.9%となっている。

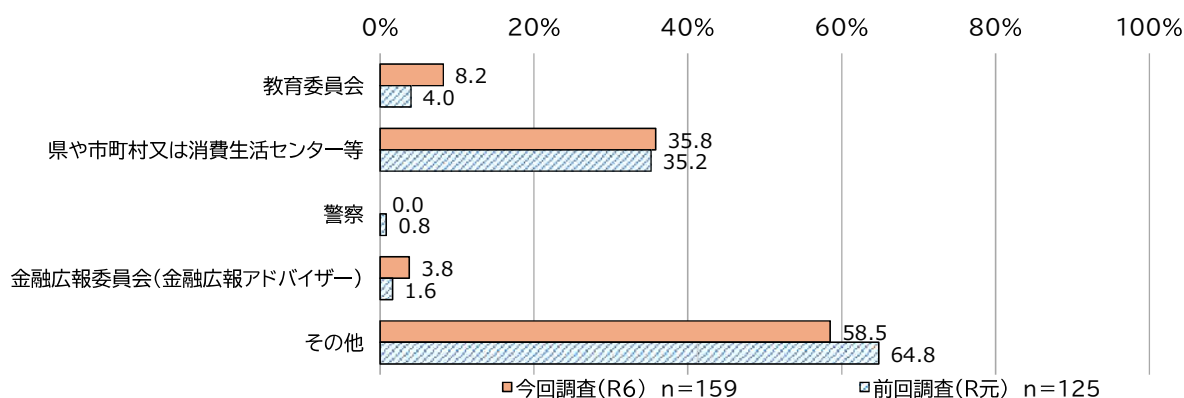


上段:回答者数 下段:構成比		全体	行った	行わなかった	無回答
上位1位 上位2位					
前回調査(R元)		412	125	282	5
		100.0	30.3	68.4	1.2
今回調査		429	159	270	-
		100.0	37.1	62.9	-
区分	公立	425	159	266	-
		100.0	37.4	62.6	-
	私立	1	-	1	-
		100.0	-	100.0	-
	国立	1	-	1	-
		100.0	-	100.0	-
	無回答	2	-	2	-
		100.0	-	100.0	-
学校規模	200人以下	304	110	194	-
		100.0	36.2	63.8	-
	201~400人	61	26	35	-
		100.0	42.6	57.4	-
	401~600人	35	13	22	-
		100.0	37.1	62.9	-
	601人以上	28	10	18	-
		100.0	35.7	64.3	-
	無回答	1	-	1	-
		100.0	-	100.0	-

問5 問4で「1 行った」とお答えになった方にお聞きます。

授業を行った外部講師の所属を選んでください。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

授業を行った外部講師の所属については、「その他」が58.5%と最も多く、次いで「県や市町村又は消費生活センター等」が35.8%、「教育委員会」が8.2%となっている。



上段:回答者数 下段:構成比		全体	教育委員会	県や市町村又は消費生活センター等	警察	金融広報委員会(金融広報アドバイザー)	その他
前回調査(R元)	回答者数	125	5	44	1	2	81
	構成比	100.0	4.0	35.2	0.8	1.6	64.8
今回調査	回答者数	159	13	57	-	6	93
	構成比	100.0	8.2	35.8	-	3.8	58.5
区分	公立	159	13	57	-	6	93
		100.0	8.2	35.8	-	3.8	58.5
	私立	-	-	-	-	-	-
	国立	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-
学校規模	200人以下	110	9	42	-	5	60
		100.0	8.2	38.2	-	4.5	54.5
	201~400人	26	2	10	-	1	16
		100.0	7.7	38.5	-	3.8	61.5
	401~600人	13	1	2	-	-	10
		100.0	7.7	15.4	-	-	76.9
学校規模	601人以上	10	1	3	-	-	7
		100.0	10.0	30.0	-	-	70.0
学校規模	無回答	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-

【その他の回答】

・JAXAの職員
・情報通信業
・NPO 法人
・リサイクルセンターの職員
・栄養教諭
・公認会計士
・市役所の職員
・鹿児島法人会
・商工会
・商工会議所
・食生活推進委員
・生命保険会社

・税務署職員
・税理士協会
・町役場税務課
・租税教室推進協議会
・地域の方々
・発明工夫協会
・弁護士
・保険会社
・民間企業
・役場 税務課職員
・役場が依頼した講師(クリエイター)

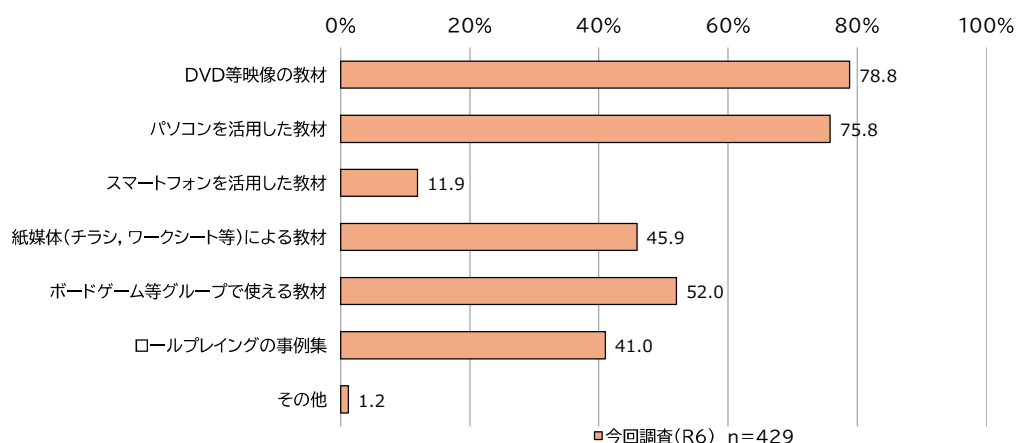
問6 PTAの行事等, 教育課程外での, 児童への消費者教育の取組があれば書いてください。

回答(自由記述) ※主な回答を記載
・「めざせ! 食品ロス・ゼロ」川柳コンテストへの応募
・長期休業中の生活指導の中で, お金の使い方や情報モラルについて話し合う ・家庭教育学級等で, 食育・環境教育・情報教育についての学びの場を設定する
PTA(学校保健委員会) スマホ・ケータイ教室 ・課金の怖さ ・望ましい使い方等
PTAによるリサイクル活動の実施
PTA パザー
キッズマネースクール認定講師の方が, 1年生にお店屋さんごっこ(お店やさんごっこ)体験学習をした
タブレットなどの ICT 機器の正しい使い方や家庭でのルールづくりについて
家庭教育学級 ネットリスク問題について
家庭教育学級「魚の捌き方教室」
家庭教育学級と子ども育成部合同で, 「添加物について」学習会を実施した
家庭教育学級において「マネーセミナー」を実施した
各家庭での朝ごはんコンテスト
学級 PTA 等で, 消費者ホットラインなど, 困ったときの相談先について周知した
学級レクリエーションでの物作り体験等
学年レクリエーションと家庭科の消費者教育の内容を合体させて, 外部講師による, 親子で参加できるお金の使い方講座を実施した
郷土料理作りの際に消費生活への関心を高め, 課題解決をする資質や能力の育成
校内で栽培した椎茸を郵便局やガソリンスタンドで販売(PTA 活動)
市消費生活センター相談員の方を講師にお招きして, 5・6年児童と全保護者を対象とした消費生活講座(テーマ: ネット依存対策・ネットモラルについて)を実施した
授業参観及び PTA にて, 高学年の保護者向けに親子メディア教室を実施し, 情報端末機器の利用と健康被害について学習した
情報モラルの関係では親子教室を取り組む中で, 少々話題になった
食育については, 企画したことがあった
親子マネーセミナー(親子でお金の使い方について考える学習)
大隅税務署の方を講師として招聘し, 租税教室を行った
地域の夏祭りにおける子ども育成会の出店と, その時の子どもたちの買い物の仕方
田植え, 稲刈りなどの活動から農業生産

3. 「消費者教育用の教材」について

問7 授業等で活用しやすいまたは効果があると思われる教材を選んでください。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

授業等で活用しやすい有効な教材については、「DVD等映像の教材」が78.8%と最も多く、次いで「パソコンを活用した教材」が75.8%、「ボードゲーム等グループで使える教材」が52.0%となっている。



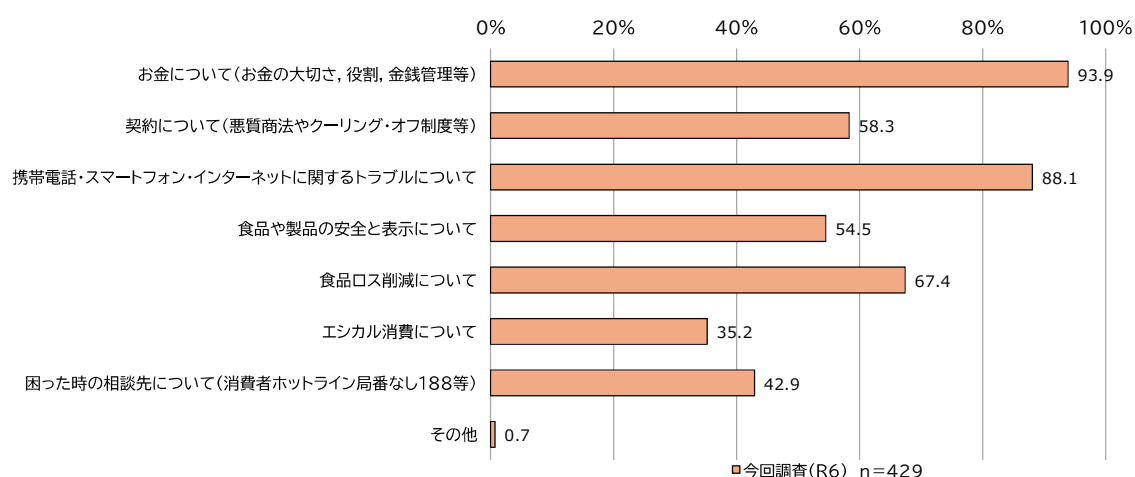
上段:回答者数 下段:構成比		全体	D V D 等 映 像 の 教 材	パ ソ コ ン を 活 用 し た 教 材	ス マ ー ト フ ォ ン を 活 用 し た 教 材	紙 媒 体 (チ ラ シ 等) に よ る 教 材	ボ ー ド ゲ ー ム 等 グ ル ー プ で 使 え る 教 材	集 団 ロ ー ル プ レ イ ン グ の 事 例	そ の 他
今回調査		429	338	325	51	197	223	176	5
		100.0	78.8	75.8	11.9	45.9	52.0	41.0	1.2
区 分	公立	425	335	322	50	196	222	176	4
		100.0	78.8	75.8	11.8	46.1	52.2	41.4	0.9
	私立	1	1	1	-	1	-	-	-
		100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
	国立	1	1	-	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
学 校 規 模	無回答	2	1	2	1	-	1	-	1
		100.0	50.0	100.0	50.0	-	50.0	-	50.0
	200人以下	304	241	232	33	140	156	123	1
		100.0	79.3	76.3	10.9	46.1	51.3	40.5	0.3
	201~400人	61	48	47	10	26	33	32	1
		100.0	78.7	77.0	16.4	42.6	54.1	52.5	1.6
学 校 規 模	401~600人	35	25	27	5	18	19	10	1
		100.0	71.4	77.1	14.3	51.4	54.3	28.6	2.9
	601人以上	28	23	18	3	13	14	11	1
		100.0	82.1	64.3	10.7	46.4	50.0	39.3	3.6
	無回答	1	1	1	-	-	1	-	1
		100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0

【その他の回答】
・タブレット教材
・タブレットアプリ
・必要ない

4. 「児童に対する消費者教育の課題等」について

問8 消費者教育で取り組むべきテーマを選んでください。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

消費者教育で取り組むべきテーマについては、「お金について(お金の大切さ、役割、金銭管理等)」が93.9%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォン・インターネットに関するトラブルについて」が88.1%、「食品ロス削減について」が67.4%となっている。



※ 「エシカル消費」とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のこと。

上段:回答者数 下段:構成比		全体	お金について(お金の大切さ、役割、金銭管理等)	契約について(悪質商法やクーリング・オフ制度等)	携帯電話・スマートフォン・インターネットに関するトラブルについて	食品や製品の安全と表示について	食品ロス削減について	エシカル消費について	困った時の相談先について(消費者ホットライン局番なし188等)	その他
今回調査		429	403	250	378	234	289	151	184	3
		100.0	93.9	58.3	88.1	54.5	67.4	35.2	42.9	0.7
区分	公立	425	400	248	374	233	287	150	184	3
		100.0	94.1	58.4	88.0	54.8	67.5	35.3	43.3	0.7
	私立	1	1	-	1	-	1	-	-	-
		100.0	100.0	-	100.0	-	100.0	-	-	-
	国立	1	1	1	1	1	1	-	-	-
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
学校規模	無回答	2	1	1	2	-	-	1	-	-
		100.0	50.0	50.0	100.0	-	-	50.0	-	-
	200人以下	304	287	181	270	173	206	118	139	2
		100.0	94.4	59.5	88.8	56.9	67.8	38.8	45.7	0.7
	201~400人	61	57	37	54	32	41	20	21	-
		100.0	93.4	60.7	88.5	52.5	67.2	32.8	34.4	-
学校規模	401~600人	35	32	19	27	16	22	6	15	1
		100.0	91.4	54.3	77.1	45.7	62.9	17.1	42.9	2.9
	601人以上	28	27	12	26	13	20	6	9	-
		100.0	96.4	42.9	92.9	46.4	71.4	21.4	32.1	-
	無回答	1	-	1	1	-	-	1	-	-
		100.0	-	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-

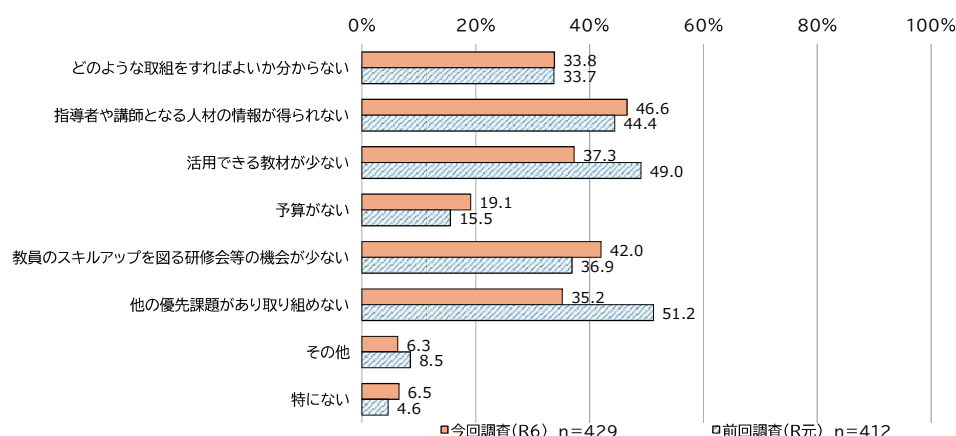
【その他の回答】

- ・法について
- ・ゲームの課金
- ・キャッシュレス決済等のデジタルマネーについて

問9 消費者教育を推進するにあたって、課題となっていることを選んでください。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

消費者教育を推進する際の課題については、「指導者や講師となる人材の情報が得られない」が46.6%と最も多く、次いで「教員のスキルアップを図る研修会等の機会が少ない」が42.0%、「活用できる教材が少ない」が37.3%となっている。

前回調査と比較して、「他の優先課題があり取り組めない」は16.0ポイント、「活用できる教材が少ない」は11.7ポイント減少している。



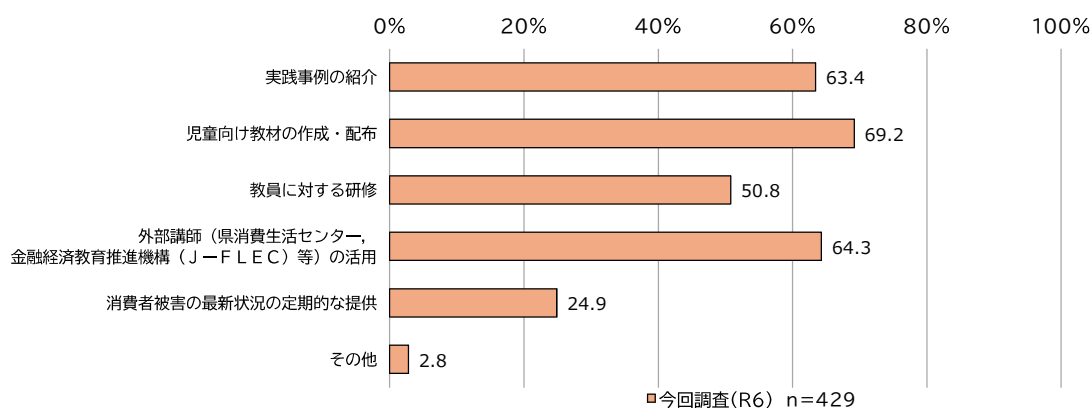
上段:回答者数 下段:構成比	全体	ば ど よ い か う な か 取 組 を い す れ	材 指 の 情 報 や が 講 師 ら と れ な る い 人	い 活 用 で き る 教 材 が 少 な	予 算 が な い	少 な い 研 修 会 等 の ア ツ キ が を	他 の 優 先 課 題 が あ り 取 組 め な い	そ の 他	特 に な い
前回調査(R元)	412 100.0	139 33.7	183 44.4	202 49.0	64 15.5	152 36.9	211 51.2	35 8.5	19 4.6
今回調査	429 100.0	145 33.8	200 46.6	160 37.3	82 19.1	180 42.0	151 35.2	27 6.3	28 6.5
区分	公立	425 100.0	143 33.6	200 47.1	159 37.4	81 19.1	179 42.1	151 35.5	27 6.4
	私立	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-
	国立	1 100.0	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-
学校規模	200人以下	304 100.0	91 29.9	140 46.1	112 36.8	53 17.4	130 42.8	95 31.3	17 5.6
	201~400人	61 100.0	30 49.2	28 45.9	22 36.1	11 18.0	25 41.0	26 13.1	8 3.3
	401~600人	35 100.0	14 40.0	19 54.3	17 48.6	9 25.7	15 42.9	20 57.1	2 5.7
	601人以上	28 100.0	9 32.1	13 46.4	9 32.1	9 32.1	10 35.7	10 35.7	1 3.6
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-

【その他の回答】

- ・テーマが多岐にわたる。
- ・どこまでが消費としてとらえたらいいか。消費の範囲。限りなく広く、小学校段階でどこまですべきか。
- ・家庭と連携した学習が取り組みにくい。
- ・学習することが多く、時数が足りない。
- ・教科の中で取り組むことはできるが、取り立てて授業することは時間的にむずかしい。
- ・現在の指導内容に関連して指導を実施している。特化して工夫する時間がなかなかとれない。
- ・資料が、少ないためどこまで子どもに話をしたいかが、分からない。
- ・授業時数の確保、単発な内容にならないための工夫が難しい。
- ・新たな学びをしている教員が少ない。
- ・打合せや準備時間をとられてしまう。
- ・地域の商店が廃業していき、十分な学習ができなくなっている。
- ・地理的なものから店や工場の見学が難しい。
- ・幅広い内容の体系化が十分でない。
- ・本校、教育課程において消費者教育の視点を重視した取組が十分ではない。

問10 学校において消費者教育を推進するために必要だと思うことを選んでください。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

学校において消費者教育を推進するために必要なことについては、「児童向け教材の作成・配布」が69.2%と最も多く、次いで「外部講師(県消費生活センター、金融経済教育推進機構(J-FLEC)等)の活用」が64.3%、「実践事例の紹介」が63.4%となっている。



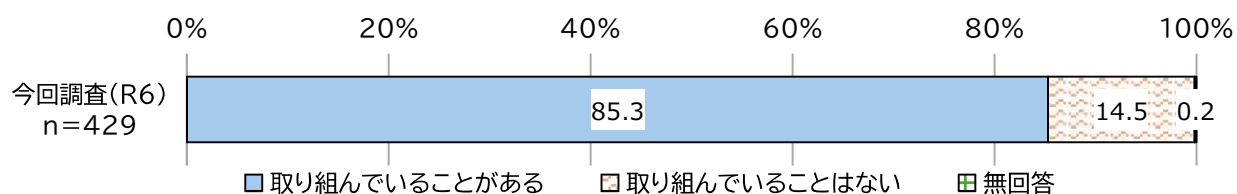
上段:回答者数 下段:構成比		全体	実践事例の紹介	児童向け教材の作成・配布	教員に対する研修	外部講師(県消費生活センター, 金融経済教育推進機構(J-FLEC)等)の活用	消費者被害の最新状況の定期的な提供	その他
今回調査		429	272	297	218	276	107	12
		100.0	63.4	69.2	50.8	64.3	24.9	2.8
区分	公立	425	270	295	217	275	107	12
		100.0	63.5	69.4	51.1	64.7	25.2	2.8
	私立	1	-	1	-	-	-	-
		100.0	-	100.0	-	-	-	-
	国立	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-
学校規模	無回答	2	1	1	1	1	-	-
		100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-
	200人以下	304	188	212	161	194	74	6
		100.0	61.8	69.7	53.0	63.8	24.3	2.0
	201~400人	61	39	48	23	42	19	4
		100.0	63.9	78.7	37.7	68.9	31.1	6.6
学校規模	401~600人	35	23	22	17	26	8	2
		100.0	65.7	62.9	48.6	74.3	22.9	5.7
	601人以上	28	22	14	17	13	6	-
		100.0	78.6	50.0	60.7	46.4	21.4	-
学校規模	無回答	1	-	1	-	1	-	-
		100.0	-	100.0	-	100.0	-	-

【その他の回答】

- ・授業時間以外で実施することができない。
- ・教育内容の整備。
- ・教科書の内容に合わせた実践事例。
- ・時間の確保。
- ・教育活動全般の見直し。
- ・教育委員会の指導, リーダシップ。
- ・授業時数の削減を強く言われている。教科の進程もある中, どこから時間を生み出すのか。ちなみに来年度からは, 予備時数は, 0 時間になる。
- ・教員の自覚。
- ・保護者向けの研修。
- ・教育課程の見直し, 時数調整, 教科書内容の確認。

問11 消費者教育に関連して食品ロス削減について、児童への意識啓発のために取り組んでいることはありますか。(単数回答)

食品ロス削減に関する児童への意識啓発の取組については、「取り組んでいることがある」が85.3%、「取り組んでいることはない」が14.5%となっている。

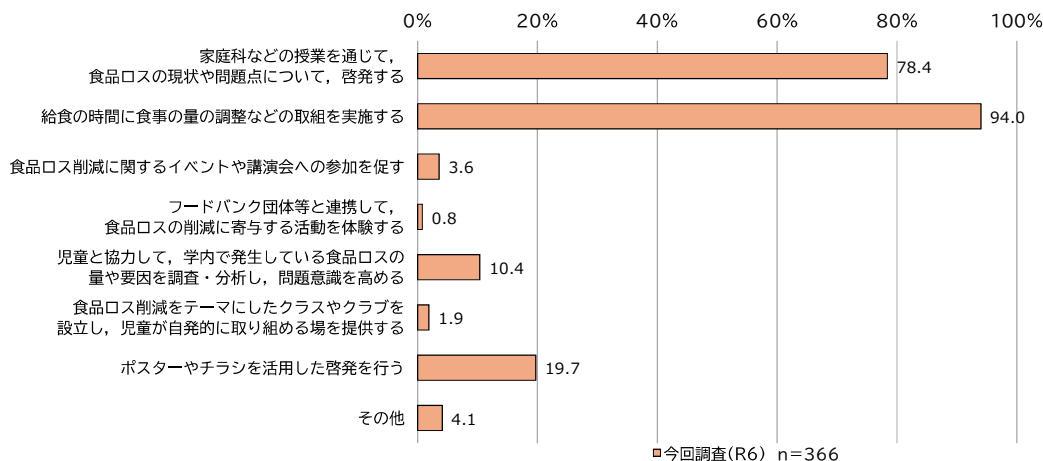


上段:回答者数 下段:構成比		全体	取り組んでいることがある	取り組んでいることはない	無回答
上段:回答者数 下段:構成比		上段:回答者数 下段:構成比	上段:回答者数 下段:構成比	上段:回答者数 下段:構成比	上段:回答者数 下段:構成比
今回調査		429 100.0	366 85.3	62 14.5	1 0.2
区分	公立	425 100.0	363 85.4	61 14.4	1 0.2
	私立	1 100.0	- -	1 100.0	- -
	国立	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	無回答	2 100.0	2 100.0	- -	- -
学校規模	200人以下	304 100.0	260 85.5	43 14.1	1 0.3
	201~400人	61 100.0	48 78.7	13 21.3	- -
	401~600人	35 100.0	32 91.4	3 8.6	- -
	601人以上	28 100.0	25 89.3	3 10.7	- -
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -

問11-1 問11で「1 取り組んでいることがある」とお答えになった方にお聞きします。

取り組んでいることで、より効果的と感じた取組は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

食品ロス削減により効果的な取組については、「給食の時間に食事の量の調整などの取組を実施する」が94.0%と最も多く、次いで「家庭科などの授業を通じて、食品ロスの現状や問題点について、啓発する」が78.4%、「ポスターやチラシを活用した啓発を行う」が19.7%となっている。



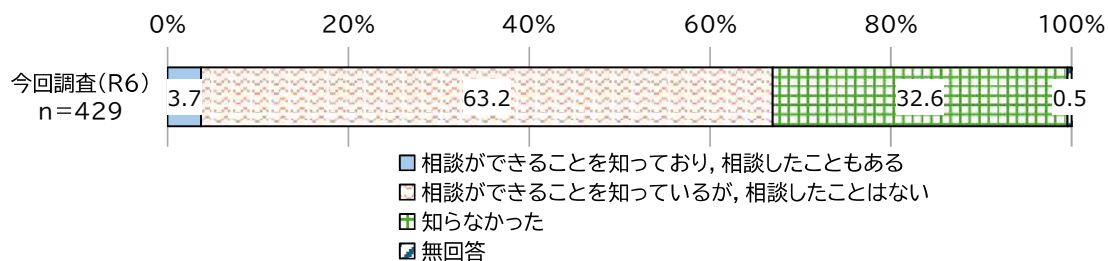
上段:回答者数 下段:構成比		全体	家庭科などの授業を通じて、食品ロスの現状や問題点について、啓発する	給食の時間に食事の量の調整などの取組を実施する	ポスターやチラシを活用した啓発を行う	食品ロス削減に関するイベントや講演会への参加を促す	児童と協力して、学内で発生している食品ロスの量や要因を調査・分析し、問題意識を高める	フードバンク団体等と連携して、食品ロスの削減に寄与する活動を体験する	食品ロス削減をテーマにしたクラスやクラブを設立し、児童が自発的に取り組める場を提供する	その他
今回調査		366	287	344	13	3	38	7	72	15
		100.0	78.4	94.0	3.6	0.8	10.4	1.9	19.7	4.1
区分	公立	363	285	342	13	3	37	6	71	15
		100.0	78.5	94.2	3.6	0.8	10.2	1.7	19.6	4.1
	私立	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	国立	1	-	-	-	-	1	1	-	-
		100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-
学校規模	無回答	2	2	2	-	-	-	-	1	-
		100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	50.0	-
	200人以下	260	212	244	7	3	21	6	46	10
		100.0	81.5	93.8	2.7	1.2	8.1	2.3	17.7	3.8
	201~400人	48	35	46	3	-	6	-	16	5
		100.0	72.9	95.8	6.3	-	12.5	-	33.3	10.4
学校規模	401~600人	32	21	30	3	-	3	-	6	-
		100.0	65.6	93.8	9.4	-	9.4	-	18.8	-
	601人以上	25	18	23	-	-	8	1	4	-
		100.0	72.0	92.0	-	-	32.0	4.0	16.0	-
	無回答	1	1	1	-	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-

【その他の回答】

- ・給食センターによる残食調査
- ・給食委員会活動の中で、「残さず食べよう」「献立の発表」など声かけをする
- ・学校保健委員会で保護者への啓発
- ・栄養教諭による食育講話 生産農家による講話
- ・地元の素材を活かした給食について、生産者に話を聞く
- ・子供たちとのコミュニケーション
- ・総合的な学習の時間に食品ロス削減の取り組みをしている
- ・社会科の学習で、食糧自給率と食品ロスについて取り扱っている
- ・食品ロスカルタの活用

問12 消費生活センターなどへ消費者教育の相談ができることを知っていましたか。(単数回答)

消費者教育の相談先の認知度については、「相談ができることを知っているが、相談したことはない」が63.2%と最も多く、次いで「知らなかった」が32.6%、「相談ができることを知っており、相談したこともある」が3.7%となっている。



上段:回答者数 下段:構成比		全体	あて相 るお談 りがで きるこ とを知 もつ	はて相 ない るが で きるこ とを知 もつ	知ら な か つ た	無 回 答
今回調査		429	16	271	140	2
		100.0	3.7	63.2	32.6	0.5
区分	公立	425	16	269	138	2
		100.0	3.8	63.3	32.5	0.5
	私立	1	-	-	1	-
		100.0	-	-	100.0	-
	国立	1	-	-	1	-
		100.0	-	-	100.0	-
学校規模	無回答	2	-	2	-	-
		100.0	-	100.0	-	-
	200人以下	304	10	197	95	2
		100.0	3.3	64.8	31.3	0.7
	201~400人	61	4	34	23	-
		100.0	6.6	55.7	37.7	-
学校規模	401~600人	35	-	19	16	-
		100.0	-	54.3	45.7	-
	601人以上	28	2	20	6	-
		100.0	7.1	71.4	21.4	-
	無回答	1	-	1	-	-
		100.0	-	100.0	-	-

問13 消費者教育に関する取組充実のために、ご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

回答(自由記述) ※主な回答を記載
消費者教育を改めて枠として立ち上げるのならば、学校において負担でしかない。消費者教育に係る諸機関が学校教育で行われている教育活動、内容を研究し、現状にどう反映、関連させていくことができるかという考え方で進めていただきたい。
今後積極的に活用を図っていききたい。
大事な教育だと思っているが、授業時数内では単発な学習になり、本当に子どもが身につけられるのかと思うところがある。本来はじっくり取り組みたいが…。
消費者教育の進め方について、学年、学級でのバラつきがある。指導者向けの授業の実践例等の資料、教材があればよいと思う。教員自身の消費者教育の指導内容や方法についての理解が足りない現状がある。
低・中学年児童向けに分かりやすい教材があればありがたい。(学校で把握できていないのかもしれないが)
必要なものを必要な分だけ購入し消費する人材を育てることが現在の教育には必要な気がする。
夏休みの自由研究のテーマにできそうなパンフレットを配布し、自由研究に取り組ませることで児童の関心を高める。
デジタル社会における消費者トラブルに対する教育についても、今後重要になってくると思う。
教科指導の中で効率よく学習を進めていきたい。
職員研修で活用できるような動画資料を作成してほしい。既にあるなら、紹介していただきたい。
この調査の「消費者教育」とは、指導要領に示される「消費者に関する教育」という認識で合っているか。
大切な教育とはわかっているが、授業等で十分に行えていない実態である。教科等と連携して教師が意識して取り組んでいけるようにしたい。
あれもこれも学校で指導することになり、何も精選されていないので、負担が大きいと感じる。
学校で使用できる教材がほしい。(できればデジタル教材)
小学校の場合、5年生6年生は、社会科の時間に実施できるが、その他の学年は、他にやることがあり予備時数も0時間となると、余程消費者教育に学校をあげて力を入れるぞと考えると、付け焼き刃の内容になる可能性が高くなると感じる。
インターネットの影響について考える授業を行う。
地域住民の減少で、商店などが廃業し、学習内容の編成が難しくなっている。
消費者教育の出前授業を提供していただき、教材等の活用で教師の指導力を高めていきたい。
離島に住むものに必要な内容の消費者教育について知りたい。
体系的な指導内容と教科等が示されたものがあると授業にすぐ生かせるのではないと思う。
研究先進校でなく、一般の多くの学校が比較的容易に実践に取り組めるための、全ての資料等を提供してもらおう。
「消費者教育」として時数をとって実施することはしていないが、各教科等の中でネットトラブルや食品・製品の安全や表示・食品ロス削減について指導している。子供たちが発達段階に応じて気軽に読める読み物資料などが充実するとより取組やすくなるのではないだろうか。